

卒論報告書テンプレート

サブタイトル

学番 中村 直人

指導教員：中村 直人

1 はじめに

一般に、テレビ放送などの動画は、その内容を画一的に閲覧できるのみである。一方、Web に代表されるハイパーメディアは、ユーザが選択的に情報を得ることができる。そこで、動画像の特徴を活かして更にリンク構造を付加したハイブリットメディアが提案されてきている。具体的なリンクの実現手法として、本研究では、電子透かしを用いることとした。この方法では、カメラ付きデバイスでリンクを読み取るので、多彩なリンク先を設定することが可能である。そこで、本研究では、Azure の Web App Bot を利用し研究室紹介チャットボットの製作を行うことを目的とする。

2 システムの概要

本研究では、インターフェースとして LINE を用いる。個々の会話は LINE から Webhook により Azure 上の Web サービスに接続する。更に接続された web サービスは MicroSoft 社の自然言語処理サービス LUIS を用いて質問文の解析と、応答文の作成を行う。その結果は、JSON 形式により LINE のインターフェースに戻される。その構成を図??に示す。

3 現在の進捗状況

(1) スタンプラリー

Web リンク機能を有するアプリケーション作成した。今回の実験ではコンテンツとして学科紹介のビデオを視聴させ、電子透かしでそのビデオに対応した問題の Web ページにリンクし、全ての箇所での結果がデータベースに保存した。結果として、来場者のうち 152 名が利用し好評な結果を得た。また、データベースに保存されたアクセスログにより、来場者の経路の分析など新たな成果が得られた

(2) 環境利用コンテンツ

Web リンク機能とアプリケーションを有するシステムである。たとえば、飼育のシーンで電子透かしをかざせば、いろいろな餌を与えられるなどゲーム感覚でシミュレーションを行えるアプリケーションを作成する。御宿町と協力して「ミヤコタナゴ」について、コンテンツの作成などを進めている。その実証実験風景を図??に示す。

4 今後の計画

本研究では、動画像をアンカーとしてウェブページやアプリケーションにリンクするタブレットアプリケーションの開発を行う [1]。また、本システムに対応した教育用ビデオコンテンツを作成し、本システムの有効性を検証する予定である。

参考文献

- [1] 太宰治、『走れメロス』、新潮（1940 年 5 月号）
- [2] 太宰治、太宰治全集 3（ちくま文庫）、筑摩書房（1988）。
- [3] Friedrich von Schiller, バラード『Die Bürgschaft』, 1815.